

集魚抜群で大型を競い食いさせる

**ペレ道200cc+水200cc+白べら200cc+
バラケバインダー200cc+軽麩200cc**



●作り方

「ペレ道」に充分水を浸透させるため、水を加えたら2〜3分放置する。その後、残りの麩エサを入れ、ムラが出ないようにかき混ぜる。それをそのまま丸めて使う。時間とともにペレットのネバリが出るので、最初から練らないこと。また、できあがりのエサのネバリが強いと感じたら「バラケバインダー」を「浅ダナー本」にかえても良い。



●使い方のコツと手直し

主体となる「ペレ道」をいかに水中でをふくらませながら、エサの芯を残すかをブレンドする麩エサで調整する。基本は「ペレ道」1に対して麩エサ3がベースだが、その日の状況によりペレットへの反応が強い、麩エサへの反応がよいのかを判断して方向性を探り、「ペレ道」と麩エサの比率を変えていく。

作ったままのエサがいきなり持たない場合は「ペレ道」、ウキの動きが少ないときは「白べら」、魚が寄ってエサ持ちが悪く、エサをネバラせたい場合は「バラケバインダー」をそれぞれ追いつく。

●特徴

魚を寄せる力のある「ペレ道」でしっかりと魚をタナ近くに寄せる。重さもあるので上層のへら鮒をかわして、食い気のあるへら鮒をタナまで素早く導ける効果もある。

軽めにできるペレ宙ブレンド

粒戦細粒50cc+水200cc+
白べら200cc+もじり200cc+軽麩200cc



●作り方

「粒戦細粒」を水で溶いて5分ほど放置する。そこへ「白べら」、「もじり」、「軽麩」（この3つを先に別ボウルで混ぜ合わせておく作りやすい）を入れ、全体をかき混ぜる。ここで、さらに5分ほどおいてからもう一度全体をかき混ぜる。こうすることで、「粒戦細粒」と麩エサのなじみがよくなる。



●使い方のコツと手直し

できあがりのエサが少し軟らかいと感じたら「浅ダナー本」や「バラケバインダー」をひと掴み足して使う。動きが悪い場合は「白べら」、寄りがきつい場合は「浅ダナー本」か「バラケバインダー」を追い足す。カラツンなどが目立つときは、手水で軟らかくし、練って小エサにして使ってもOK。しっかりなじむ大きさにエサ付けすることがポイントだ。

●特徴

軽く仕上がるペレットブレンドなので、両ダンゴ感覚で使える。短竿、小ウキで回転の速い釣りを可能にしたペレ宙ブレンドだ。

●エサの大きさ

実寸大

直径2.5~3cm



小さめ
6×9mm



通常
8×12mm

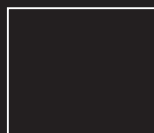
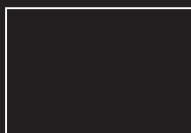


大きめ
10×16mm

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ17×25mm～

絡み止めタングステンオモリ1g+0.25mm厚板オモリ17×20mm



●釣り方のコツ

規定いっぱい長竿で、沖

を攻めて大型を揃えていく釣り方と、短竿で回転良く攻め、数を釣りながら少しでも型を揃えていく2パターンがある。重いエサを使うので、ウキは大きめで太めのパイプトップがよい。

エサの重さでハリスが張った状態での食いが多いため、アタリはダイナミックになる。ペレットで寄せて競い食いさせるので、多数のアタリパターン

があるが、大型ほどいいアタリを出すのがこの釣りの特徴でもある。

エサの手直しも多少はあるが、どちらかというとセツティングが重要になることが多い。オモリの量、ハリスの長さなどで随分変わることが多いので、頭に入れておこう。

また、この釣りは、時間が経つほどに型がよくなってくる傾向がある。

まずは、しっかりと魚を寄せることが大切。次に、寄った魚に負けないウキとエサが必要となり、しっかりと深なじみさせることを心掛けたい。この時に、サワリの量とアタリの数で、反応するエサの方向を見つけていく。次に、ハ



リスの長さを探り、最後にタッチをいじる順番で対応していくのが、この釣りの正解への導き方だ。

タッチは、柔らかいエサへの移行もあるので、振り込みには注意したい。また、ウズリにもなりやすいので、このときは「粒戦細粒」を使うと効果的。

使い方は、いま使っている

エサに生のままパラパラと少量ずつ加えていくだけ。重さと粒子で魚が少しずつ落ちていくはずだ。特にペレット系に反応がよいときなどには、かなりの助け船（エサ）になるでしょう。平日の釣りではかなり多用でき、これが文句なく釣れるようなときもあるので、バッグに入れておくことを忘れずに！

■基本セッティング

竿●浅ダナ(8~13R)
沖宙(18尺~規定一杯の長竿)

ミチイト●0.8~1.2号

ウキ●羽根寸8~12cm
ペレ宙用の太パイプトップ

ハリス●0.4~0.6号
※浅ダナは上20cmと下30cmでスタート
※沖宙は上50cmと下60cmでスタート

ハリ●浅ダナ(6~7号)、
沖宙(7~8号)

型が揃うので、仕掛けも全体的に少し太めで対応したい。注意点はウキとオモリとハリスの長さ。しっかりとエサを背負えるウキとオモリの量、その後、ゆっくりなじむハリスの長さ。また、なじんだウキが見やすいトップ。これらがマッチして、初めてドスンと入る独特のアタリが出せる。ハリも大きめで、エサをしっかり持たせてくれる大きさが必要となる。